

豊見城市ラストワンマイル交通需要調査

実施計画書(案)

令和4年11月

豊見城市

<目 次>

1 業務の目的	1
2 豊見城市におけるラストワンマイル対策について	2
2.1 これまでの検討状況	2
2.2 ラストワンマイル対策の手法検討	5
3 需要調査に向けた実施計画の作成	8
3.1 ラストワンマイル交通需要調査の目的	8
3.2 実施方法の検討	9
3.3 年次計画	15

1 業務の目的

豊見城市では公共交通の利便性向上を目的として様々な施策を進めている。平成31年4月には豊見城市内一周線（105番）のルート見直しを行い、一部の公共交通不便地域においては解消されたが、我那覇・渡嘉敷・高安・豊崎等の一部地域ではなお不便地域が残存している状況にある。

市内公共交通のさらなる利便性向上のために、豊見城市では『豊見城市交通基本計画（令和3年2月）』『豊見城市総合交通戦略（令和4年3月）』を策定し、自宅・目的地とバス停を接続する「ラストワンマイル対策」を検討することとした。

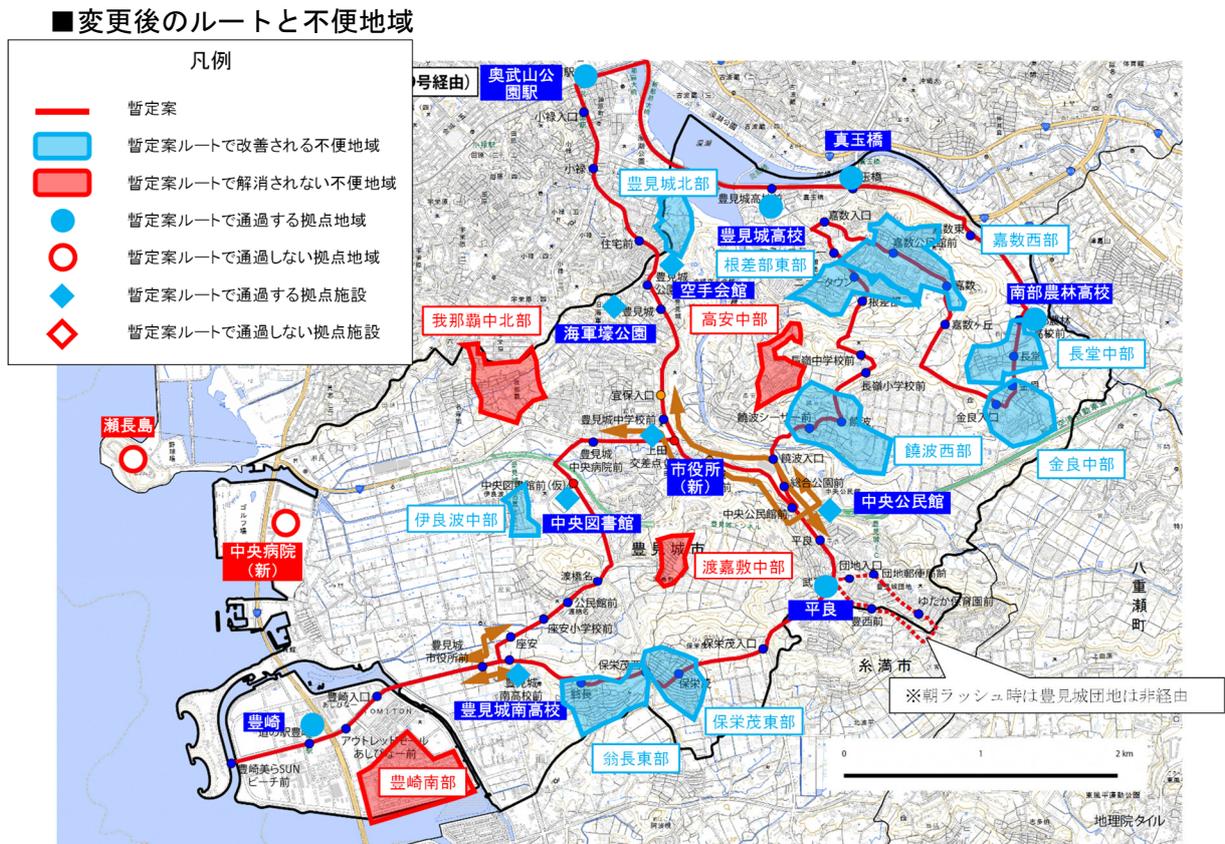
本業務では、豊見城市内でのラストワンマイル対策として導入可能な交通モードの検討、および市内におけるラストワンマイル交通の需要状況に関する調査を行う。

2 豊見城市におけるラストワンマイル対策について

2.1 これまでの検討状況

(1) 市内一周線のルート変更検討（平成 31 年 2 月）

市内一周線（105 番）のルート変更においては、市内の公共施設へのアクセスや公共交通不便地域をできるだけ改善し、拠点施設を極力経由することに重点を置いたルートを検討した。市内一周線（105 番）が走る以前においては 13 地区存在した公共交通不便地域は 4 地区にまで減少することができたが、なお不便地域が残存する結果となった。また、市内一周線（105 番）のみが経由する地区においては約 2 時間に 1 便の運行であり、公共交通の利便性が十分高いとは言えない状況にある。



【出典】市内一周線ルート変更事前調査報告書（H31.2）

(2) 豊見城市交通基本計画（令和3年2月）

豊見城市では市内一周線（105番）のルート変更によって公共交通不便地域の大半が改善されたが、それでも一部不便地域が残存していた。豊見城市交通基本計画ではこれらの不便地域へと接続するための「多様なフィーダー交通網の構築」として、フィーダー交通を「基幹的公共交通の拠点と周辺地域の連携を図る役割を担い、基幹的公共交通では網羅できない地域や、一定の地域内の住民の日常生活における移動を支える役割を担う交通」とし、公共交通不便地域等における自宅からバス停までのラストワンマイル対策としての多様な交通手段について検討することとした。

■検討対象とされる交通手段の例



グリーンスローモビリティ



コミュニティバス



タクシー

【出典】豊見城市交通基本計画（R3.2）

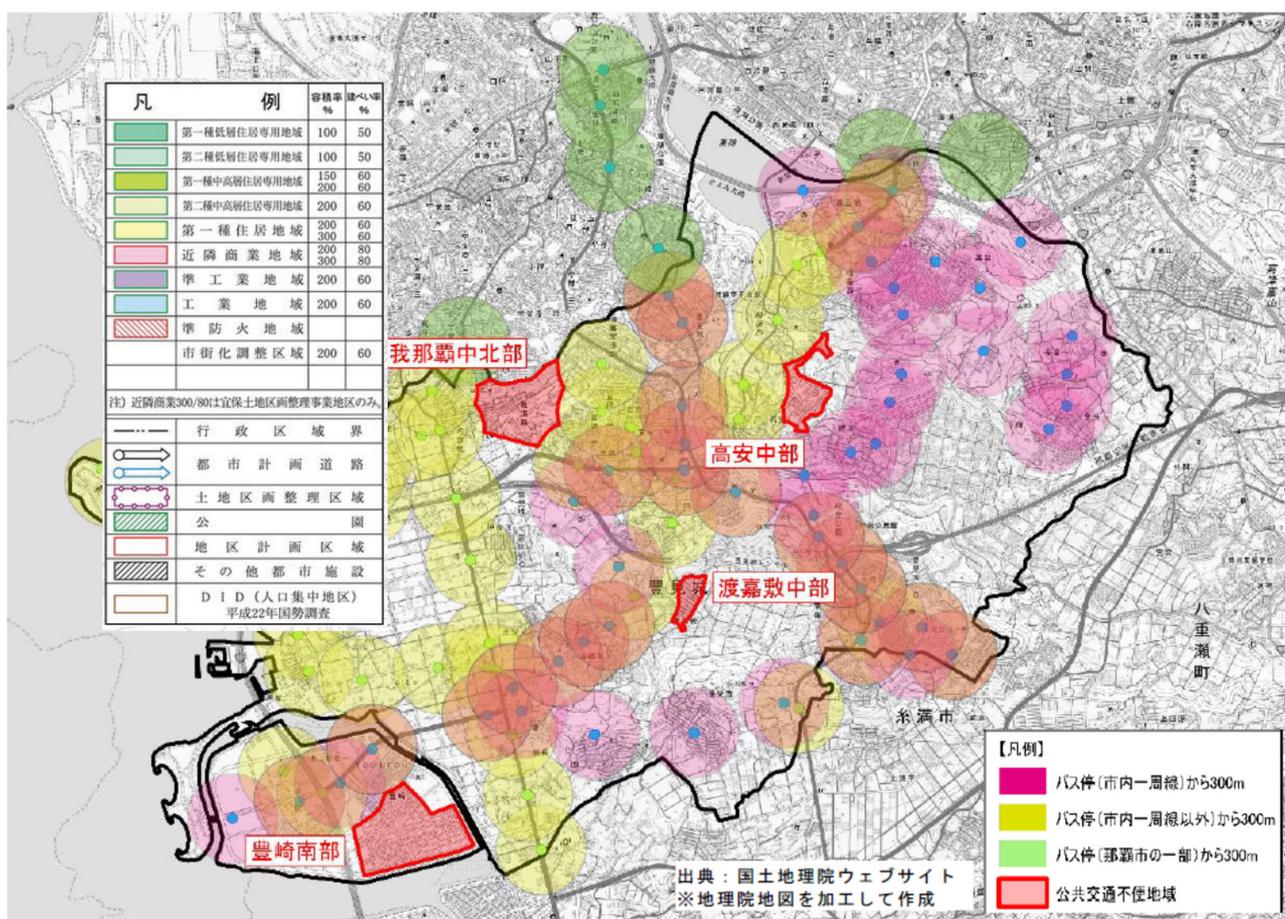
(3) 豊見城市総合交通戦略（令和4年3月）

豊見城市では公共交通不便地域等における自宅からバス停まで、観光地における最寄りバス停までなどのラストワンマイル交通が課題となっており、持続可能な交通サービスを提供することが求められている。そのため豊見城市総合交通戦略では、高齢者、観光客など地域の特性に合わせて、市内にある地域の輸送資源を総動員するなど多様な交通手段の導入検討を行うこととした。

平成31年4月の市内一周線ルート変更によって、市内の公共交通不便地域は大部分が解消されたが、それでも一部地域においてはなお不便地域が残っている状況にある。またバス路線が運行されている地域においても、バスの運行本数が少ないなどの公共交通サービスの向上が課題となっている。

そのため、公共交通不便地域の解消や公共交通サービスの維持などを目的として、利用者ニーズや需要に合わせた交通手段を整理し、比較検討を行う必要がある。

■公共交通不便地域及びバス路線運行状況



【出典】豊見城市総合交通戦略（R4.3）

2.2 ラストワンマイル対策の手法検討

(1) 各施策の比較検討

豊見城市の西側は海を望んだ平地に、南北に走る国道 331 号や県道 256 号線を中心として比較的整備された道路網が形成されているが、東側は丘陵部となっており、狭い道やアップダウンの激しい道が多く、大型車両の運行が困難な状況である。

こうした本市の特性をふまえ、導入可能な交通手段としては、以下の 4 つが考えられる。これらの交通手段の導入可能性について、様々な観点から比較検討を行うこととした。(次ページ参照)

- ① 小型コミュニティバス
- ② デマンド交通
- ③ グリーンスローモビリティ
- ④ タクシー割引クーポン

(2) 需要調査の必要性

ラストワンマイル交通施策の導入に向けては、利便性向上以外に経済性や既存公共交通との共存も考慮する必要がある。調査の実施に際しては既存の公共交通を活用してなるべく費用を抑える方法を用いることとする。また、地域・年代毎の需要量の偏りや、費用対効果の高い料金設定などを把握するために、需要調査はある程度の期間を設け複数回に分けて実施する予定である。

また、本調査の結果は実証実験の手法を決定するための基礎データとする。

(3) 需要調査の手法

需要調査は、比較案の中で最も導入費用が安価で、手続きや機材等の準備も不要で早期実施が可能な「タクシー割引クーポン」を活用して行うこととする。

■各施策の比較

No	比較案	メリット	デメリット	導入費用 ※1	採算性 (費用対 効果)	継続性	関係者 (運行事業 者等)との 調整	道路運送 法に基づ く手続	導入までの スピード	その他
1	小型コミュニ ティバス	乗合により比 較的多くの人員 を輸送可能	・乗合に対する抵 抗感がある ・目的地以外を経 由するため時間 がかかる	【高】 ・車両費 ・運行システム	【不明】 (利用状 況による)	【不明】 (利用状 況による)	【必要】	【必要】	運行システム の構築に時間 を要する	受託業者の 確保
2	デマンド型交 通	利用者ごとの ニーズに対応 可能	・予約システム導 入・人件費などに 費用がかかる							
3	グリーンスロ ーモビリティ	車両が小さく 狭い道路も走 行可能	・乗車定員が少な い ・速度が遅いため、 後続車への影響 を懸念							
4	タクシー割引 クーポン	既存タクシー で対応可(通常 より安価な料 金で利用)	・長距離移動だと 料金が高額にな る	【安】 ・クーポン発 券及び割引料 金 ・事務手数料			【不要】	手続や機材等 の準備が不要 なので、早期 の導入が可能	路線バス利 用が減とな らない制度 設計が必要	

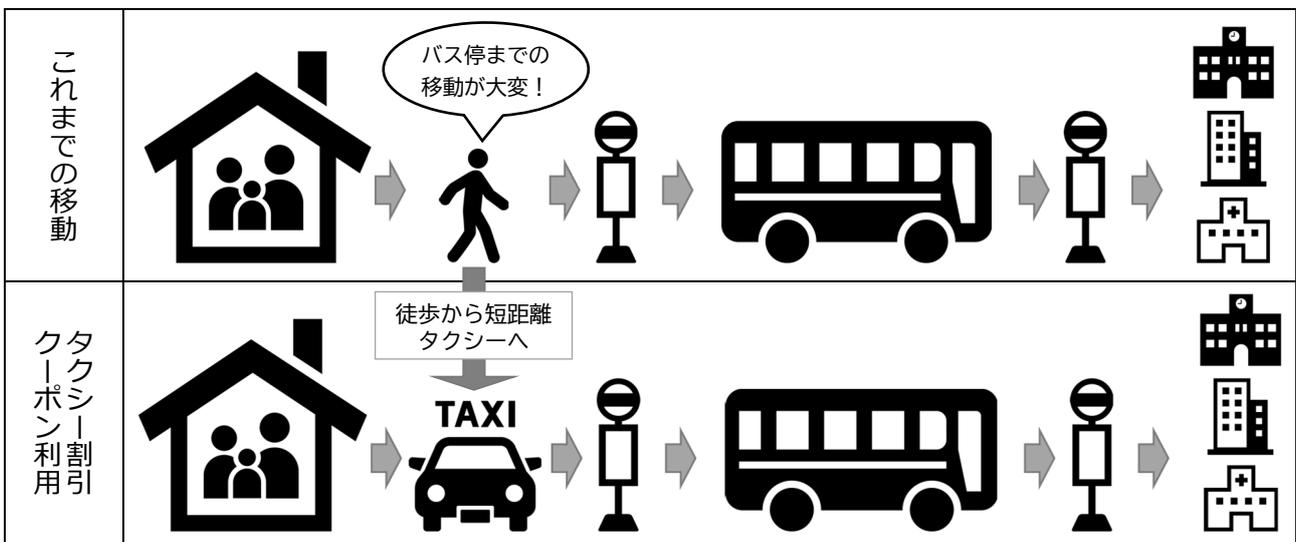
※1 No.2～3はドア to ドア方式・バス停方式の場合、停留施設等の導入費用も要する。

(4) 実施方法

本調査は、これまで特に高齢者などの交通弱者への大きな身体的負担となっていた自宅または目的地（学校・病院・商業施設等）からバス停までなどの移動について、他自治体のデマンド交通並みの金額で公共交通を利用できた場合の需要量を確認するための調査である。

本調査では市民に対して定額のタクシー割引クーポン（アンケート一体型）を配布し、利用してもらうことでデータを収集する。短距離のタクシー利用とバスへの乗換えの両方を促進することが目的であるため、割引クーポンは近距離移動での使用を奨励し、長距離移動はバスとの乗継を奨励する。（割引クーポンの価格は固定額とするため、短距離移動では割安となるが、長距離移動では割安感は薄まり、バスとの乗継を行う方が割安となる。）

■タクシー割引クーポン配布における利用の転換イメージ



■各移動方法における料金・身体的負担の比較

これまでの移動		料金：安価（バス代のみ） 身体的負担：高
タクシー割引クーポン利用		料金：比較的安価（バス代＋タクシー割引） 身体的負担：低
すべてタクシーで移動		料金：高額 身体的負担：低

3 需要調査に向けた実施計画の作成

3.1 ラストワンマイル交通需要調査の目的

本調査では以下の点に関するデータ収集を目的とする。

- 市内の交通利便性向上に効果があり、豊見城市に適した施策を検討するためのデータ取得
- 需要の多い地域や年代等のニーズを確認

なお施策検討には以下の点も考慮する。

- 既存公共交通の不足している部分を補うことによる市内の交通利便性向上
- 豊見城市内の交通事業者を活用
- 市民の交通利便性向上と、行政の費用負担のバランス
- バス・タクシーを含めた全体的な公共交通利用者数の底上げ

最終的な目標としては、「公共交通利用率の向上により渋滞が緩和し、公共交通の定時性が向上する」「交通事業者の収益増により、公共交通サービスが維持・充実される」こととする。そのためこの取組によりタクシーの長距離移動が増加し、バス等公共交通利用が減少するという事態にならないよう工夫が必要である。

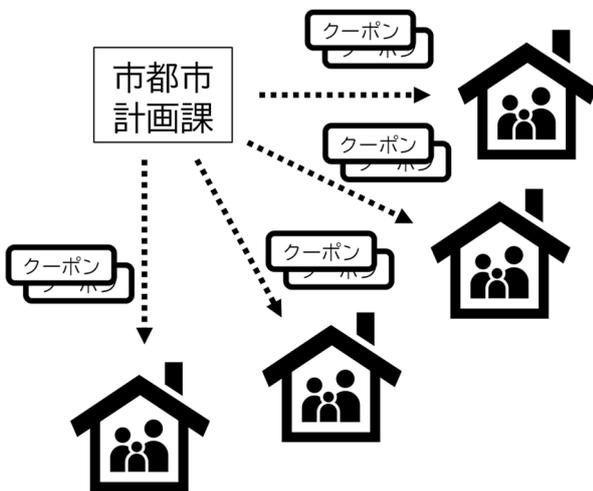
3.2 実施方法の検討

(1) 実施方法（案）

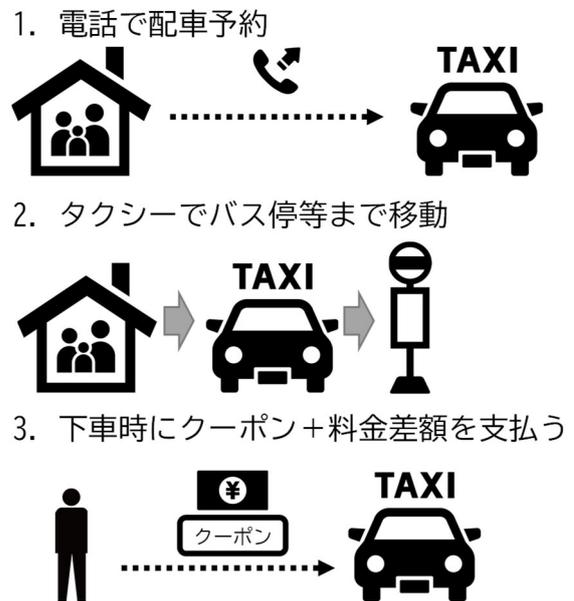
- 市内各世帯に対して、アンケート付のタクシー割引クーポンを配布する。
- 割引クーポンは、アンケート回答者のみ使用可とする。
- アンケート票はタクシー事業者からタクシー協会が回収し、協会が一括して市へ提出する。
- 市はタクシー事業者に対して、回収したアンケート票数に応じて割引クーポンの精算を行う。
- 市は回収したアンケート結果を分析し、次年度以降の施策検討材料とする。
- 対象区間は乗降地どちらかが豊見城市内とすることが条件である。

■クーポン施策実施方法（イメージ）

①クーポンの発行・配布（市→利用者）



②クーポン利用（利用者→タクシー事業者）



③クーポン精算（タクシー事業者→協会→市）

1. 集めたクーポンをハイヤー・タクシー協会が集約



2. 協会が集約したクーポンを市都市計画課へ提出



3. 市都市計画課は事業者へクーポンの利用料金を支払う



(2) クーボンの配布方法

- 豊見城市内の全世帯に対して、毎月発行される市広報誌に折り込む形でタクシー割引クーポン2枚（200円／1枚）とクーポン利用方法の解説チラシ（利用者向け）を配布する。またクーポン割引対象タクシー事業者に対して、クーポン回収および料金精算方法の解説チラシ（タクシー事業者向け）を配布する。

※配布用紙はA3（1枚）を想定。（半分：利用者向けチラシ、半分：割引クーポン2枚）

豊見城市「ラストワンマイル[※]交通」に関する需要調査

※「ラストワンマイル」とはバス停等の公共交通機関から自宅・目的地までをつなぐ「最後の徒歩区間」を言い、特に高齢者の皆様に外出のハードルとなっている区間を指します。

日頃から市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

豊見城市では、公共交通の利便性向上に向けた検討を行うために、自宅や目的地とバス停の間をつなぐ「ラストワンマイル交通」に関する需要調査を行います。1枚200円のタクシー料金として利用可能なタクシー割引クーポンを2枚配布しますので、以下「利用方法」をお読みの上、日常の移動等ご自由にお使いください。（長距離の移動は、路線バス等へお乗り換え下さい）

令和5年●月
豊見城市 都市計画課

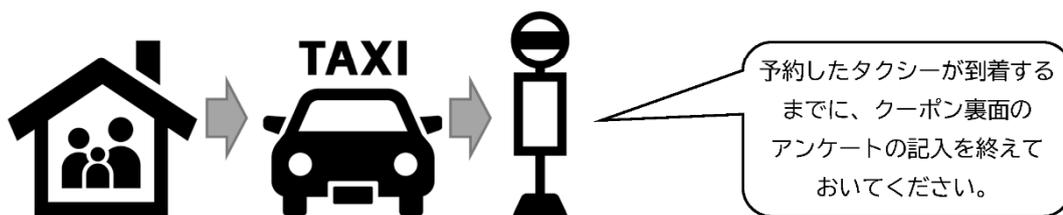
タクシー割引クーポンの利用方法

利用する際にはタクシー割引クーポンに記載されているタクシー事業者に電話をかけて、配車を依頼してください。目的地まで移動したら、タクシー割引クーポンと差額料金を支払ってください。

1. 電話で配車予約



2. タクシーでバス停等まで移動



3. 下車時にクーポン+料金差額を支払う



クーポン利用時の注意点

1. 出発地・目的地のどちらかが豊見城市内でなければ、ご利用いただけません。
2. クーポンは1回の移動で1枚のみ利用できます。2名以上の移動でも1枚のみの利用になります。
3. クーポン利用には裏面アンケートの回答が必須となります。クーポン利用時には必ず回答を記入し、下車時に運転手まで提出してください。未回答クーポンは割引対象とならないので、ご注意ください。
4. 本施策は対象となるタクシー事業者があらかじめ指定されています。必ずクーポン記載のタクシー事業者に電話で配車を依頼して、クーポンを利用してください。街中を走っているタクシーや、病院・商業施設等のタクシースペースで乗車したタクシーはクーポン対象外となりますのでご注意ください。
5. バス停付近は駐停車禁止となっております。バス停に移動する際には運転手と相談して、少し離れた場所で下車するよう、ご注意ください。
6. アンケートの回答結果は、豊見城市の公共交通に関する施策検討にのみ利用され、目的外の利用は行いません。

■配布チラシ（タクシー事業者向け）イメージ

タクシー事業者向け

豊見城市「ラストワンマイル[※]交通」に関する需要調査

※「ラストワンマイル」とはバス停等の公共交通機関から自宅・目的地までをつなぐ「最後の徒歩区間」を言い、特に高齢者の皆様に外出のハードルとなっている区間を指します。

拝啓

益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、豊見城市では公共交通の利便性向上に向けた検討を行うために、自宅や目的地とバス停の間をつなぐ「ラストワンマイル交通」に関する需要調査を行います。豊見城市民に対して1枚200円のタクシー料金として利用可能なタクシー割引クーポンを2枚配布しますので、以下「回収・精算方法」をお読みの上、タクシー精算時に回収し、精算手続きを行ってください。

令和5年●月
豊見城市 都市計画課

タクシー割引クーポンの回収・精算方法

①タクシー割引クーポンの回収

利用者はタクシー割引クーポンに記載されているタクシー事業者に電話をかけて、配車を依頼します。利用者の目的地まで移動したら、アンケート記入済みであることを確認したうえで、タクシー割引クーポンと差額料金を回収してください。

1. 電話で配車予約



2. タクシーでバス停等まで移動



3. 下車時にクーポン+料金差額を支払う



②タクシー割引クーポンの精算

利用者から回収したクーポンは、ハイヤー・タクシー協会へ提出してください。協会できりまとめて市都市計画課へ提出します。提出枚数に応じて、後日クーポン分の利用料金を市からお支払いします。

1. 集めたクーポンをハイヤー・タクシー協会が集約



2. 協会が集約したクーポンを市都市計画課へ提出



3. 市都市計画課は事業者へクーポンの利用料金を支払う



クーポン回収・精算時の注意点

1. 出発地・目的地のどちらかが豊見城市内でなければ、ご利用いただけません。
2. クーポンは 1回の移動で1枚のみ利用できます。2名以上の移動でも1枚のみの利用になります。
3. クーポン利用には 裏面アンケートの回答が必須となります。クーポン受領時には必ず回答済みであることを確認のうえ、受領してください。また電話での 配車依頼時にもアンケート回答が必要な旨、必ずご案内ください。未回答クーポンについては精算対象外となるので、ご注意ください。

<表面>

豊見城市ラストワンマイル交通需要調査
タクシー割引クーポン
(使用期限:R●●●～R●●●)

200円割引

【利用時の注意点】

- ・アンケート未記入の場合は割引を受けられないので、記入忘れや記入漏れには十分お気を付けてください。
- ・長距離の移動には、路線バス等へお乗換ください。
- ・バス停留所の前後は駐停車禁止区間です。タクシー降車時は、少し離れた場所で降りるようご注意ください。
- ・1回の利用で割引を受けられるのは1枚分のみです。複数人で利用していても、割引分は1枚分となりますのでご注意ください。

<各タクシー会社の予約用電話番号>

- | | |
|---------------|---------------|
| ●●タクシー予約: | ▽▽タクシー予約: |
| 000-0000-0000 | 000-0000-0000 |
| ◆◆交通予約: | ○○交通予約: |
| 000-0000-0000 | 000-0000-0000 |
| ▲▲交通予約: | ◇◇交通予約: |
| 000-0000-0000 | 000-0000-0000 |

<裏面>

豊見城市ラストワンマイル交通
需要調査アンケート

1. 利用箇所(施設名または地名(字●●または●●市)
【 乗車() 降車() 】
2. 利用時間
【 乗車(時 分 ~ 降車(時 分) 】
3. 利用目的
【 買物 通院 送迎 通勤・通学 その他 】
4. 年代 【 18歳未満 19～29歳 30～39歳 40～49歳
50～59歳 60～69歳 70～74歳 75～79歳 80歳以上 】
5. タクシークーポンがない場合の移動手段
【 自家用車 バス タクシー 徒歩・自転車
その他() 】
6. 今後の利用意向
【①利用したい ②利用しない ③分からない 】
※②③の場合、理由を教えてください。
【 】
7. 「相乗り(他人と乗り合わせること)」についての利用意向
【①相乗りでも利用する ②知人との相乗りなら利用する
③相乗りなら利用しない ④分からない】
8. その他(自由意見)
【 】

3.3 年次計画

(1) 1年目（需要調査）

目的：広く浅く需要調査を行い、需要の多いエリア・年代・時間帯等を抽出

対象エリア：市内全域

配布枚数：1世帯あたり2枚、1枚200円

参考：豊見城市世帯数（27,630世帯、令和3年9月末時点）

期間：1～2ヶ月

(2) 2年目（必要に応じて需要調査、または実証実験）

目的：1年目の結果を踏まえて調査エリア等を設定

対象エリア：選定エリア（1年目調査で需要の多いエリアを選定）

配布枚数：前年度より増

期間：要検討

(3) 3～5年目（必要に応じて需要調査、または実証実験）

目的：前年の結果を踏まえて調査エリア等を設定

対象エリア：選定エリア

配布枚数：前年度までの結果を踏まえて検討（必要な方のみに配布等）

期間：要検討